

## 令和3年度学校目標 (令和4年公開)

### 学校目標

- (1) 本校は、高等専修学校で、高等学校と同じように普通教科の学習のほかに、職業生活に役立つ技能・技術を学ぶ専門教科を学習します。また、日本教育学院高等学校と技能連携をむすび、卒業時には高校卒業資格を得ることができます。生徒は、関西情報工学院専門学校の卒業証書と高校の卒業証書の2種類を取得することになります。このように2種類の卒業証書を取得して卒業することをめざします。
- (2) 本校の教育理念は、「すべては礎の上に」であり、何ごとにも「基礎・基本」が大事であり、単に学習の習得だけでなく、学習の「礎」にもなる「生活習慣の確立」をめざします。
- (3) 本校の目標とする生徒は、日本の社会発展に寄与・貢献し、社会で活躍する「人材」、「責任と実行力」のある人材を育成することをめざします。
- (4) 基礎的体力、社会的コミュニケーションの育成・確立を目指して、「運動」(「クラブ活動」・「ボランティア活動」など)を推奨します。
- (5) 新型コロナウイルス感染症の対応を迅速に実践することをめざします。

### [めざす学校像]

- (1) 本校の教育理念は、「すべては礎の上に」であり、何ごとにも「基礎・基本」が大事であり、単に「教科学習」の習得だけでなく、学習および社会生活の「基礎・基本(挨拶・礼儀)」を大事にし、「基本的生活習慣」の確立をもめざす。
- (2) 本校の目標とする生徒は、日本の社会発展に寄与・貢献し、社会で活躍する「人材育成」を主眼とし、「責任と実行力」のある人材になるよう育成する。
- (3) 人権学習を重視し差別、いじめのない安心・安全で生活できる学校をめざす。
- (4) 日々の学校生活の中で基礎的体力、社会的コミュニケーション能力の育成・確立を目指して、「運動」(「クラブ活動」・「ボランティア活動」など)を推奨し、自己表現できる場を提供する。

### [学校目標]

- (1) に関して
  - ① 上記の目的を達成するため、検定資格(日本漢字能力検定、日本数学検定、英語検定、全商情報処理・ビジネス文書実務検定(ワープロ検定)、全経簿記検定、色彩検定、等)の取得を推奨し、合格率を上げる。上位検定取得も奨励する。
  - ② 不登校傾向のある生徒に対しては、登校指導とともに、家庭訪問などの諸策を講じ、進級・卒業に向けて尽力する。今年度の重点目標は、退学防止である。
  - ③ 「分かる授業」を実践し、「授業改善」を図る。常に環境美化に努めきれいな教室、学習できる教育環境の充実に図る。
  - ④ ピアカウンセリングを実施し、生徒の学校生活や高校卒業後の進路などについて、先輩として話しを聞き不安を和らげ支援する。
- (2) に関して
  - ① 各学期の中間・期末考査前の一週間は、毎日放課後勉強会を実施すると共に、基礎学力の定着を促して

いる。

- ②人間関係の基礎基本に当たる挨拶の励行では、日ごろから挨拶の大切さを指導し、生徒会の活動において毎月のように「挨拶運動」週間を実施し、学校全体で挨拶の励行に取り組んでいる。
- ③生活習慣の確立を目指し、欠席者には必ず連絡をし、遅刻者には遅刻理由と健康確認を促している。また月1回必ず生徒と懇談を行い生活習慣が乱れることのないよう話し込みに取り組んでいる。

### (3) に関して

- ①社会に貢献、活躍できる人材の育成については、1年次より卒業後の進路に眼を向けさせ、週1回の「進路」授業を通して目標を持たせ、それに向かって努力するよう取り組んでいる。
- ②3年間の月別進路指導表を作成し、生徒や保護者に進路指導の目標や流れの理解を促す。  
また、月1回「進路だより」を発行し生徒や保護者に配布。各学年の進路の取り組みなどを理解しやすいように工夫する。
- ③3年間の高校生活を見通した計画的・発展的な指導体制を築き、「進路年間予定表」（全学年）を発表し、同時に長期休暇中には学校で学習する時間の増大を図り、希望する進路実現の具体化を図る。
- ④ハローワーク担当者や企業経営者、卒業生による講習や講演を実施することを通して、必要な情報を提供し、進路決定に役立たせる。
- ⑤1年次より、就職困難生徒を対象に、放課後「進路クラブ」を実施し、基礎的な技術の習得や体力の増進を図る。
- ⑥クラブ活動の参加率を高め、集団生活における心構えや意識の涵養を図る。また、1年2学期より、アルバイトの奨励とともに、2年の就労体験、2年の年度末の進路相談の充実を図る。
- ⑦種々のボランティア活動を個別に紹介し、奨励する。学校周辺の清掃活動を実施し、ボランティア精神を涵養する。

上記3つの目標を達成するために、教員間の連携を強め生徒を善導していく。

### [校務分掌の目標]

#### [教務部]

##### 【年次目標】「不易流行」すべての教育活動に信頼関係が不可欠

(信頼関係の下「普遍的な事」と「変化する事」を積み重ねる環境を作る。純粋な気持ちで生徒の力になりたいという思いが行動につながる)

- ①基礎学力の育成と向上、学び直しによる基礎学力の定着を図る。就職・入学試験に対応できる学力の養成・定着を図る。
- ②検定試験の合格率を上げる。(上級検定取得を目指す)
- ③授業運営(教科指導)での支援強化。(実習室、図書室、補習室、視聴覚室の活用)
- ④退学防止、いい学校づくり。(生徒、保護者、教職員が三位一体になる)
  - ・生徒が学校に楽しく登校したいと思える場所。
  - ・生徒の居場所の確保。(教室、クラブ活動、生徒会など)
  - ・生徒と接する時間を増やす→生徒を理解する→月ごとの生徒との懇談の実施。
  - ・生徒の情報を常に学年で共有する。
  - ・社会情勢に合わせた考え方の変化が必要とする。指導の個別化(個別教室・教室に入れない・精神的な要因による不登校)など全体指導が合理的でない場面への時代に合わせた教育を行う。
- ⑤学校運営の面から分掌や学年が協力体制を作る。教職員間での意思の疎通をはかる。また、情報を共有し環境改善のきっかけを作る。全教職員が学校(関西情報)を好きになる。

【各学年目標】（生徒用）

年次目標	内 容
1年生	基礎学力の育成。自己肯定感の育成（できることを増やし結果を見出す）
2年生	自らが学ぶ姿勢の育成と学力の向上
3年生	卒業後につながる社会に順応できる力を身につける

【生活指導部】

【年次目標】「安心して安全な学校生活を自主的に送れるように環境を整備する。」

- ①1年間を通して皆出席を目指し、遅刻欠席のないように指導する。
- ②校則の遵守に努め、風紀委員による活動を充実させサポートする。（服装・頭髪違反会を無くす）
- ③校内外の美化に努め、美化委員による活動を充実させサポートする。（ゴミや汚れを無くす）
- ④全教職員共通認識のもと、生徒をしっかりと観察して問題行動の早期発見、指導に努める。
- ⑤いじめが起きないように部から学年へ、学年からクラス（担任）へと生徒指導の統一と一貫性を遵守するように図る。また、生徒との懇談を充実させ生徒の言動に注意を配り、生徒の情報を常に共有することを図る。
- ⑥いじめが起きた場合、早期に事情を聞き取り対策委員会に報告（職員会議）し、学校全体の問題として捉え解決へと導く。
- ⑦いじめ、虐待、食物アレルギー、熱中症、コロナ、災害は重要課題なので、常に教職員に意識を持たせ、校内研修に務める。

【各学年目標】（生徒用）

年次目標	内 容
1年生	学校のルールを理解させ、自己向上のために前向きな気持ちで育む。
2年生	互いの人権を尊重する。また常に就職面接を意識して服装を正す。
3年生	出席状況の改善。

【進路指導部】

【年次目標】「進路実現力の向上」「必要に応じた進路開拓」

- ①1年次より週に1回「進路」授業を通して、卒業後の進路に目を向けさせ、進路授業計画に沿って進路を切り開いて行くように導く。
- ②2年次に進路合宿を実施し、進路意識の向上と自らの適性能力を理解し就職へと導く。
- ③採用する企業から要請される新卒生像を生徒に理解させ、能力や姿勢の育成に努める。とくに、体力のない生徒、学力が低い生徒は、各学年と協力しながら、工夫して取り組む。
- ④卒業後の離職理由は「体力がない」、「適応能力不足」など様々である。生徒や保護者に丁寧に説明し、就労意識を高め、1年次より就職に必要な体力などの育成に努める。
- ⑤進学を希望する生徒に、1年次より系統的・体系的な指導を確立する。大学のオープンキャンパスや進学情報を的確に生徒・保護者に伝え、必要に応じて個別懇談を随時実施する。また、経済的に困難を抱える生徒の相談に応じ、必要な情報を提供する。又、1年次より校外の模擬試験を行い、自らの学力を客観的に理解し進学意識を高める。
- ⑥進学を希望する生徒の学力伸長には、日々の授業はもちろんのこと夏季勉強合宿、春季講習会を通して集中的に学習機会を設け学習させる。
- ⑦生徒自身も自分の可能性を信じ、教職員も生徒の可能性を認める。勝手に自分の限界を決めず、安易に妥協

することなく、将来の夢に向かって進路決定をしていけるよう、渾身のアシストを行なう。

⑧進路学習や体験を通じて、生徒の学びたい意欲ややる気スイッチをONにさせ、生徒のモチベーションを刺激するさまざまなアプローチを行う。

⑨内定・合格という花を咲かすことが最終目標ではなく、社会に出てその先の人生を豊かなものにするために、一人ひとりの進路希望の実現に向けて教職員チームとして生徒を支援しサポートする。

#### 【各学年目標】（生徒用）

年次目標	内 容
1 年生	進路に対して興味を持つ。
2 年生	進路決定に向けて準備を行う。
3 年生	希望する会社に就職、希望する学校に合格する。

#### 【事務局】

①学費・諸費徴収をスムーズに行うため、保護者連絡文書表現を改善し、教職員・保護者からの連絡に適切に対処する。また、保護者説明会やオープンキャンパス参加の中学生や保護者に分かりやすく図表化し、プロジェクトなどを使って説明する。

②各家庭の事情や経済状況を踏まえ、保護者と相談のうえ、学費の分納や延納などの対応を行う。

③就学支援金・奨学金の事務処理を的確に行う。

#### 【1 学年】

##### 【目 標】

年次目標	しんか～夢実現の第一歩～
1 学期	進化～過去の自分と向き合い、生まれ変わった自分を思う～
2 学期	深化～将来の可能性に気づき、自分の行動をより深いものへ～
3 学期	真価～自分の価値に気づき、夢実現の一步を踏み出す～

##### 【具体的手段・方法】

①入学式後、1 年全員に「高校生活」の目標と取り組みについて校長を始め、教務部、生活指導部、進路指導部の各部長及び各学年主任から説明を行い、学校生活を理解し、基本的な生活習慣の確立を目指す。また、コロナ感染状況を観察しながら、4 月中旬から 5 月下旬の間に家庭訪問を実施する予定。

1 学期実施の校外学習やサマーキャンプ（コロナ感染状況による）を通して友達の輪を深め、他人も自分も大切に尊重する心を育成する。

②遅刻・欠席防止のため、生徒の意識改革と保護者の理解と協力を強く求める。

1 学期は中学校の基礎学力の養成と定着を図る。また、他人も自分も大切に尊重できる空気作りに努める。

③中学校と高校の学習、進級、卒業の違いを理解させ、学習意欲を向上させ卒業を目指す。

④定期考査前に補習を実施し、2 学期からは、補講などを利用して資格検定試験前の補習を実施する。一つひとつの検定資格を取得し、自らの得意を見出し、友達と互いに切磋琢磨することを目指す。

自己の「得意」を伸ばし、自己受容感の向上を目指す。互いに褒め合うことを目指す。

⑤最終学期に 2 年になるための準備をする。学校生活や卒業後の進路に対する意識を高め、進路の目標を早期

に確立させる。

## [2学年]

### 【目標】

年次目標	「努・実・行・決」～4つの力を大切にする～
1学期	生活習慣を見直し、遅刻欠席のない学校生活を目指す。
2学期	検定をたくさん取得し、自分で問題を解決できる能力を身につけよう。
3学期	進路目標を定め、新しい取り組みにチャレンジし一歩前に踏み出そう。

### 【具体的手段・方法】

- ①進路を意識しての資格取得や基礎学力の向上を図る。生徒との「個別面談」や保護者・生徒との「三者面談」を実施して、進路決定の話し合いと生徒の意識向上を図る。
- ②学校生活を充実させ、進路意識の向上を図るために、年2回進路合宿（コロナ感染状況による）を行い、社会性を身につけ、集団生活に適應する力を養成する。「進路合宿」では、発声練習、模擬面接、履歴書・大学出願書類作成練習、クレペリン検査、創作活動、体力測定などを行う。また、11月には、就職希望者に職場体験（コロナ感染状況による）を実施する。
- ③進路決定をする際、出席状況が重要であり、1年次の出席状況を反省して、遅刻・欠席をしないように1学期から取り組む。
- ④保護者と日常的に連絡を取り、必要に応じて家庭訪問（コロナ感染状況による）を実施する。
- ⑤9月に行われる校外学習（コロナ感染状況による）や進路学習では、市内探索や市内見学を通して、体験学習を行い、社会生活における適應力を育成する。
- ⑥この1年で職種、校種を学び、2年終了時点では、職種、校種を決定する。

## [3年生]

### 【目標】

年次目標	未来へまっすぐ。全員が就職・進学を決定する。
1学期	未来を実現させるために、出来る限りの準備をしよう。
2学期	すべての力を出し切って、自分の未来を実現させよう。
3学期	各々の新たな出発へ踏み出す準備をしよう。

### 【具体的手段・方法】

- ①新型コロナウイルス感染症感染防止のため緊急事態宣言等が発令されなかった場合、春期休暇中に進路部長による3年生全員の進路希望面談を行い、3年生の進路の流れを確認する。  
就職希望者は、7月からの求人票掲示、求人票の見方、応募前職場見学、応募・受験の流れまでを理解させる。また、夏期休暇中の進路学習では、採用試験の筆記試験学習、履歴書の清書、面接の受け方などを学習し、9月16日に始まる高卒求人の採用試験に備える。
- ②進学希望者に関しては、3年生になってから、進路指導部による面談を実施する。希望校のオープンキャンパスやネット等を利用して得た情報から複数の受験校を選び、募集要項を早めに集める。芸術系大学など受験に実技が必要な場合は、担当教員と打ち合わせて補習を実施し、受験に備える。9月末までに受験の応募書類を準備し、願書提出に備える。
- ③3年6月の「直前進路合宿」（コロナ感染状況による）で、上記目的を理解させるとともに、集団生活を通

してのルールの大切さ、マナーの重要性を理解させる。また、マナーに関しては、9月に実施の「テーブルマナー」（コロナ感染状況による）で実際に確認する。

- ④進学希望者は、夏休み中に勉強合宿（コロナ感染状況による）に参加し、集中的に大学などの過去入試問題を解き、受験勉強の追い込みに入る。
- ⑤進路講習会では、ハローワークの担当者の講演会を実施するだけでなく、企業研修や進学体験を聴く機会を設けている。
- ⑥3学期に「進路ガイダンス」を2回設け社会保険関係と年金関係（外部講師）の学習を行っている。

## 【新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策による学校目標】

### ①感染拡大予防対策について

#### 【生徒個人】

- ア) マスクの着用、うがい手洗いの励行、手の消毒
- イ) 体調管理、検温（健康日誌の記入）の励行
- ウ) 外出の自粛
- エ) 生徒の心のケア

#### 【学校内】

- ア) 教室の換気、空気清浄機の設置
- イ) 使用教室の消毒及び共有箇所の消毒
- ウ) 三密（密閉、密集、密接）を避ける
- エ) 食事は同じ方向にむいて黙食

#### 【学校生活】

- ア) 学校生活の短縮、縮小
  - ・登校時間（時差登校）、クラス人数の縮小（20名迄）
  - ・クラブ活動の短縮、縮小
  - ・学校行事の見直し（延期、中止）  
（入学式、卒業式、校外学習、宿泊行事（修学旅行等）、健康診断、文化祭、体育祭、進路ガイダンス、スポーツ大会、各検定試験、入学試験、オープンキャンパス）
- イ) 新型コロナウイルス感染症への正しい知識と理解
- ウ) 濃厚接触者、陽性者への差別防止教育  
生徒・保護者が感染しないように感染拡大予防対策の協力を求める。

### ②濃厚接触者、陽性者が確認された場合の対策

- ア) 保健所等への報告・連絡・相談・指示
- イ) 生徒の症状確認（個人情報保護の厳守）
- ウ) 生徒の心のケア
- エ) 学校施設の消毒
- オ) 学校からの連絡（他生徒へ）

濃厚接触者、陽性者が確認された生徒の個人情報保護を厳守し、心のケアに努める。

#### カ) 出席について

濃厚接触者、陽性者と確認された生徒は、出席停止扱いとする。また発熱（37.5度以上）および咳、のどの痛み等での欠席も出席停止扱いとする。